

「共同してつくりだす活動」を学習環境の デザインの視点から見つめ直す

— 全校児童が体育館の床に絵を描く実践を通して —

久保田 美和

Reconcidering “Co-Creation Activities” from the Perspective of Learning Environment Design

— Through the practice of painting on the gymnasium floor —

KUBOTA Miwa

要約

本研究で提示する実践は、体育館の大規模改造工事を活用し、全校児童が体育館の床に絵を描く「共同してつくりだす活動」である。実践を学習環境のデザインの空間・活動・共同体の要素及び留意点から考察した。考察の結果、授業をつくる共同体は、児童、職員、保護者、授業協力者であることがわかった。共同体は、「体育館を海の世界に変身させよう」という目標を共有し、児童が描く体育館の学習環境を役割分担をもとにつくっていった。児童は、整えられた学習環境で、手や体全体を働かせ友人と交流しながら製作し、体育館の床面いっぱいに描かれた全校児童の作品をステージの上から鑑賞した。活動終了後に行ったアンケートでは、テーマ決定、製作、鑑賞の活動において「とても楽しい」「楽しい」と回答した児童が96%以上であった。

キーワード：共同してつくりだす活動、学習環境のデザイン、空間、活動、共同体、大規模改造工事

1. はじめに

(1) これまでの研究と成果

本研究は、久保田(2024)の継続研究である(以下、前研究と記す)。「共同してつくりだす活動」とは、「学習指導要領(平成二九年告示)解説図画工作編」の第4章1(5)に示され、子供たちが共に活動する中で、お互いの発想や構想、表し方などを交流しながら、表現や鑑賞を高め合い、新たな価値を生み出していく心に残る活動である。しかし、松井(2018)は、現状の美術教育において、個人の製作過程や、相互鑑賞活動などに重点が置かれている点を指摘している。また、これま

での共同制作を分析し、一つの画面に一つの主題を表すために役割分担をして完成させる作品タイプと、児童一人一人が思いを込めて作った作品を持ちより一つの意味ある作品を完成させる作品タイプに分類し、今後は、共に作品を製作することで新しい価値観を生み出させる題材開発の必要性を記している。

2021年、筆者が校長として赴任した学校は、大規模改造工事が行われる予定であった。工事関係者との打ち合わせを通し、工事前の廊下や教室の壁は、大きな画面となり「共同してつくりだす活動」の製作場所として活用できるのではないかと考えた。公立小中学校施設は、第2次ベビーブー

ムに合わせて建築されたものが多く、校舎などの老朽化が大きな課題となっている。子供たちの安全確保はもちろんのこと、公立小中学校の約9割が地域の避難所となっており、地域の防災強化の観点からも、学校施設の老朽化対策は、多くの学校で行われている。このような老朽化対策の工事を活用し、「共同してつくりだす活動」を実践することは今後の題材開発につながっていくと考えた。

2021年、2022年に行った前研究では、6年が工事前の廊下の壁や教室の床、黒板、ロッカーなどに絵を描いた。児童は、製作場所（廊下、教室）から学級ごとにテーマを考え、共用アクリル絵の具を使用した表現・鑑賞を行った。実践を比較した結果、「共同してつくりだす活動」は、製作場所の広さや奥行、場所の公共性によって、友人との関わり、身体的な動き、意識に違いがあることがわかった。

2年間の活動は、工事の進行もあり6年のみの活動であった。しかし、他学年の児童や教師、地域から「自分たちも取り組んでみたい」「自分の学級の児童にも経験させたい」「貴重な経験であり、全校に取り組ませたい」という声があった。2023年は体育館の床を張り替える工事があり、全校児童が製作できる大きな画面となる。そこで、これまでの研究を継続・発展し全校児童が体育館の床全面を使って絵を描く「共同してつくりだす活動」を目指そうと考えた。

(2) 学習環境デザイン

秋田・坂本（2015）は学習環境デザインについて、学習者が自然と主体的に学べるように、教師側が環境を構築、再構築することとしている。

美馬・山内（2024）は様々な領域で豊かな学びを生み出している実践の共通点を分析し、空間・活動・共同体の三要素を学習環境デザインの観点ととらえている。さらに山内（2020）は空間・活動・共同体をつなぐものとして人工物をあげている。学習環境デザインの三つの要素、留意点について既存研究を筆者がまとめたものを表1に記す。表1から三要素は単独ではなく、それぞれ関連してとらえる必要があると考えられる。

本研究で提示する実践は、活動場所が体育館、画面が体育館の床、全校児童による製作という通常の図画工作の授業とは異なる題材である。児童が友人との交流によって、様々な発想や構想、表し方などがあることに気付きながら、作品を仕上げていく活動にするためには、教師が学習環境を新たに構築していく必要がある。そこで本研究では、学習環境のデザインの視点から実践を見つめ直し「共同してつくりだす活動」において児童が周囲の環境と関わってどのように学んでいるかを明らかにしていきたい。

表1 学習環境のデザインの三要素と留意点

	要素の定義・説明 (山内 2020)	留意点 (美馬・山内 2024)
①空間	空間の中で学習活動を仲間とともに展開する。 机・椅子・学習資料・学習成果・他の学習者がどのように感覚として認知されるかが学習に大きな影響を与える。	「参加者全員にとって居心地のよい空間であること」 「必要な情報や物が適切なときに手に入る」こと」 「仲間とのコミュニケーションが容易に行えること」
②活動	空間内で実際に何が行われるか。 例：意見交換、解決策を考えるなどの活動が有機的に連鎖する。	「活動の目標が明快であること」 「活動そのものにおもしろさがあること」 「葛藤の要素が含まれていること」
③共同体	目標を共有する人々のつながりであり、主体的な参加により構成された集団。	「目標を共有すること」 「全員に参加の方法を保障すること」 「共同体のライブラリーを作ること」

2. 研究の内容

(1) 研究の目的

2023年6月～12月に体育館の大規模改造工事が行われる。工事の内容は、床面の張替、壁面の塗り替え、トイレの改修、外壁の改修等である。児童にとって体育館を使用できないことによる運動面の不足等、不都合な面が多い。そこで、体育館の大規模改造工事を活用し、この機会にしかできない造形活動を行う。千葉市教育委員会、施工業

者に確認したところ、体育館床面に塗装することは可能という回答であった。

床面に大胆に絵を描く活動は、児童の人生において、ほとんどないと予想される。体育館を使用できないというマイナスの一面を、二度とできない経験に変換したいと考える。前研究の2021年、2022年は廊下・教室が製作場所で、6年のみの活動であった。2023年は、体育館という広い場、そして工事最終年ということもあり、全学年で実施しようと考えた。

本活動は、学習指導要領（平成二九年告示）解説図画工作編の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」の1（5）指導計画を作成する際の配慮事項に示されている「共同してつくりだす活動」である。児童が共に活動する中で、お互いの発想や構想、表し方などを交流しながら、表現や鑑賞を高め合い、新たな価値を生み出していく心に残る活動を目指し、以下の目的を設定する。

○大規模改造工事を活用した「共同してつくりだす活動」の教材開発

○学習環境デザインの視点から、大規模改造工事を活用した教材開発の考察

（2）研究の方法

- ① 大規模改造工事を活用し、体育館の床面に全校で絵を描く教材の構想、実践をする。
- ② 活動終了後のアンケートをもとに、学習環境デザインの要素である空間・活動・共同体から実践を考察する。

（3）研究の対象

千葉市立小学校全校児童 277人

通常学級12（各学年2学級） 特別支援学級2

（4）実 施

2023年5月 図画工作科 各学年2時間計画

（アンケート、鑑賞は時間外）

（5）研究の評価

質問紙の児童回答、児童作品、保護者鑑賞者・学校評議員の批評撰から検証する。

3. 研究の実践

本研究は、構想、職員会議提案を筆者が行った。授業は、担任または筆者が行った。

（1）授業構想・職員会議提案

① 学年主任へのインタビュー

授業構想の段階で、1～6年主任、特別支援学級主任7人にインタビューを行った。7人中5人は、前研究の際、教職員研修としてアクリル絵の具を使用して壁にローラーや筆で描く活動を経験している。また6年が廊下や教室に絵を描く授業の実践者、参観者の立場であったので体育館の床に絵を描く活動のイメージはついていた。

○児童の実態から体育館の床にアクリル絵の具で絵を描く活動について

1年・2年主任は「入学、進級したばかりである。共用のアクリル絵の具を使用し、筆で体育館に絵を描くことは、混乱が予想され厳しいと思う。ローラーであれば準備ができていれば可能である」と回答した。3年主任は「ローラーは既習しており可能である。筆で描く活動は、事前指導を確実に行えば可能かもしれない」と回答した。4～6年主任は「題材によって描ける、描けないが出てくると予想されるが可能である」と回答した。特別支援学級主任は「学校行事は2年と共に活動している。2年と共に活動したい。高学年の1名は、交流学級に入り活動できるだろう」と回答した。全主任が「準備、後片付けもあることから活動は学級ごとではなく学年で行いたい」と回答した。

○課題について

全学年共通して、服が汚れる、手足が汚れるなどの服装の準備やトラブル、用具の後片付け、手洗いの際の水道の混雑が心配であると回答した。

○その他

6年主任から、テーマを決める際には、計画委員会（全校児童の行事の計画運営を行う5・6年の委員会の一つ）の活動として全校児童にアンケートをとりたいという提案があった。

また、保護者に服装準備などで協力をお願いする。仕上がった作品を保護者が鑑賞する機会を設けてほしいという意見があった。

② 職員会議提案（抜粋）

児童の実態、学年主任へのインタビュー、筆・ローラーの数などから考えた結果、活動は学年ご

とし、発色の良さ、乾燥の速さ、耐水性から共用アクリル絵の具を使用する。低学年はローラーで描き、高学年は低学年が描いたローラーの上に筆を使って絵を描く活動を行うこととし、職員会議で提案を行った。

○教科 図画工作科

○題材名 「体育館を〇〇に変身させよう」

○目標

(低学年)

「知識及び技能」に関する目標

- ・テーマをもとに、色の組み合わせや、ローラーの使い方を工夫するなどして、手や体全体を十分に働かせ活動できる。

「思考力・判断力・表現力」に関する目標

- ・自分たちの活動の造形的なよさや面白さ、表したいことについて、感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることができる。

「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- ・進んでローラーを動かし、体育館と関わる活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

(高学年)

「知識及び技能」に関する目標

- ・体育館の特徴とテーマを理解できる。
- ・体育館の特徴を生かしながら、形や色の使い方を工夫するなどして空間がよりよくなるように描く。

「思考力・判断力・表現力」に関する目標

- ・テーマをもとに自分のイメージを持ちながら、体育館の床面に描く作品を考える。
- ・体育館全体の様子をステージから確認したり話し合ったりしながら表現のよさや面白さなどを感じ取り、見方や考え方を広げることができる。

「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- ・主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

○日程

(テーマ決定)

5月10日(水) 計画委員会 全校アンケート実施

5月12日(金) 計画委員長より全校放送にてアンケート結果発表

(低学年) ローラーで描く

3年 5月23日(火) 1・2校時

1年 5月24日(水) 1・2校時

2年 5月25日(木) 1・2校時

(高学年) 筆で絵を描く

5年 5月24日(水) 3・4校時

4年 5月25日(木) 3・4校時

6年 5月26日(金) 1・2校時

*特別支援学級は、2年と活動をする。4年児童は該当学年にも入って活動する。

(作品鑑賞)

5月29日(月)～31日(水)

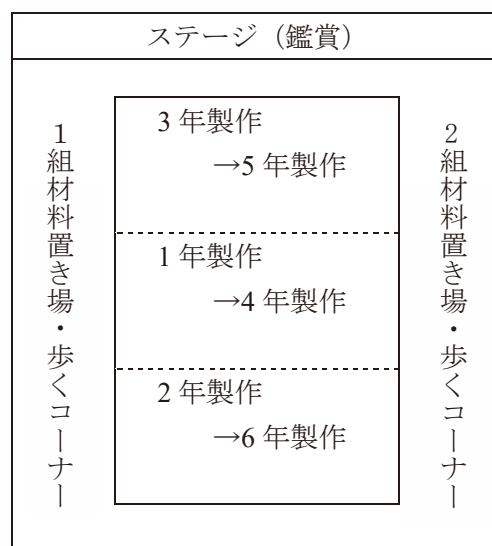
(保護者・学校評議員・学校関係者鑑賞)

5月29日(月)、30日(火)

*事務室にて受付し、体育館で自由参観。午前9時～午後3時まで。

○製作場所

図1 体育館での各学年の製作場所、材料置き場



(製作場所の活用方法)

- ・図1にあるように、体育館を3分割する。低学年がローラーで描き、乾燥させる。低学年の描いた線の上に高学年が筆で絵を描く。
- ・アクリル絵の具や用具は共用である。各学年2

学級なので、混乱がないように材料置き場を1組、2組と分ける。

- ・特別支援学級は交流学級に入る。
- ・製作終了後にステージに上がり鑑賞を行う。

○準備するもの

児童 汚れても良い服装、タオル、雑巾2枚（足ふき用1枚、絵の具や筆を拭く用1枚、古いもので可）

全学年 絵の具置き場としてブルーシート各2枚

低学年 ローラー60本、ローラー用トレイ20枚、共用アクリル絵の具

高学年 筆50本、パレット用トレイ40枚、パレット用大皿40枚、筆洗い用バケツ6個、共用アクリル絵の具

○予算 5万円 学校特色 予備費より

○活動の準備、確認、後片付け

- ・ブルーシートを敷き、用具を置く。
- ・濡れぞうきんを各自準備し、歩くコーナーの周りに置く。
- ・歩くコーナーには、アクリル絵の具を塗らないことを確認する。
- ・製作場所から離れる。製作終了後に濡れぞうきんで足、手をふく。
- ・手や足を洗う場所は1階の流しを使用する。

- ・高学年は、製作途中の筆洗いは準備したバケツを使用する。製作終了後に筆やトレイを洗う場所は、各学年の流し、図工室を使用する。

○役割分担

全校児童が関わる活動である。全職員が見守っていくという意味を込め全職員に役割を分担した(表2)。製作中の共用アクリル絵の具の補充に関しては特に低学年で混乱が予想される。技能員、教員業務支援員が授業に入り対応する。また、低学年は製作終了後の着替えに時間がかかるため、ローラーなどの片付けは技能員、教員業務支援員が行う。

(2) テーマ決定「海の世界」

全校の行事などを担当する計画委員長が、全校放送で体育館に全校児童で絵を描くこと、テーマを決めるためにアンケートをとることを周知した。各学級でアンケートの結果、テーマは「海の世界」となった。

計画委員長からの全校放送によるテーマの発表を聞いた1年の教室では、「やったー。海の世界だ」と喜ぶ児童。「お菓子の世界がよかった」と言う児童もいた。担任から「この学校は埋め立て地。みんなが生まれる前は、海の世界だったよ。みんなで素敵な海の世界をつくろう」という声に「がんばろう」「楽しみ」という声があがった。

(3) 低学年の実践（2時間扱い）

① 導入

○本時のめあて確認

体育館を海の世界に変身させよう

ー水の流れをローラーで工夫して描こうー

○ローラーの扱い方師範

- ・白・青・水色3色のアクリル絵の具を自由に選択し、ローラーで水の流れを描く。
- ・ローラーは、まっすぐ、くねくね、線や点にするなど工夫して描く。絵や字は書かない。

○楽しく活動するための約束

- ・自分の描いた線の上を友達が踏むと、こすれる場合もある。そこから、また、工夫して描く。この工夫も今日の大切な勉強である。

② 製作（紙面の関係で3年の実践のみを記す）

ローラーにアクリル絵の具をつけ、その粘り気

表2 全職員が参加する役割分担

担 当	取 組 内 容
校長	職員会議にて提案
学校施設課・工事担当者 校長・教頭	工事定例会にて、構想を提案。場所、着彩方法の確認。
事務主事・各学年図工担当・校長	予算確認、絵の具の必要数確認、発注
教務主任	日程調整
計画委員会担当	テーマ決定
各学年図工担当・技能員・教員業務支援員・校長	用具確認、準備
技能員・教員業務支援員・校長	製作前の準備、授業補助、後片付け
教頭	保護者、地域への連絡
事務主事・校長	鑑賞受付、保護者対応
6年職員・カメラマン	卒業アルバム掲載の連絡、調整
学級担任	製作、作品鑑賞

を楽しむ。動きはじめは図2のようにゆっくりと進み始め、図3のように線が伸びていく。「水の流れだから、くねくねだよ」「渦巻は？」次第に動きが活発になっていく。他の児童の動きを見て、「次は、青にしよう」「点、点も面白い」「くるくる動いてみよう」などさまざまな活動を思いついていった。製作開始20分後で図4のような水の流れの世界ができた。

③ 鑑賞

ステージに上がり、上から自分たちの描いた水の流れを見る。「すごい」「あれは、私の描いた渦巻だ」「青と白と水色が混ざって、本当の海の水の流れみたい」「この上に5年がどのような絵を描くか楽しみ」などの意見が出た（1年・2年は、3年の次に同様の製作を行った）。

（4）高学年の実践（2時間扱い90分）

本時のめあて「体育館を海の世界に変身させよう」

① 導入

○本時のめあて確認

体育館を海の世界に変身させよう
—海の生き物を工夫して描こう—

○アクリル絵の具の扱い方確認

- ・アクリル絵の具の共有方法、筆洗について確認。
- ・字を書くと、そこにだけ目がいき、全員の作品の印象が変わってしまうので文字は書かない。

○楽しく活動するための約束

- ・自分の描いた線の上を友達が踏むと、こすれる場合もある。一つ描き終わったら全体のバランスを見て、空いている場所に描く。

② 製作（紙面の関係で5年の実践のみを記す）

3年と1年が描いた水の流れを見た5年は、「すごい！」「海だ」とつぶやいた。木の体育館の床が、白、青、水色の絵の具が重なり変化していたからである。

下描きはせず、各学級の絵の具コーナーから、絵の具を選び筆で描く。図5のように一人一人が自分の描きたい場所を選び描き始めた。「この渦巻の上に描きたい。」と低学年の描いた線から場所を選んだ児童もいた。図6の児童は、「思いっきり大きな絵を描いてみたかった」と話し、自身

図2 はじめにゆっくりと進む様子



図3 次第に線が伸びていく様子



図4 3年製作開始20分後の様子



の身長より大きな魚を描いていた。図7のように、一つ目の作品を描く時は、近くにも友人と関わることなく、自分の作品に集中して描いていた。自分の考えていた一つ目の作品が描き終わり、周囲を見回す。大きな作品、小さな作品、魚、タコ、イカ、くらげなどがある。そこから、友人の作品を見て、新たな発想を浮かべ作品を描く児童、友人と一緒に描く児童が出てきた。絵の具を共用することで「いい色。それ使わせて」と言い自身の作品に取り入れる姿もあった。

③ 鑑賞

製作終了後、ステージから作品を鑑賞する。「きれい」「みんな、すごい」「〇〇の魚。大きい。小さいクラゲもかわいい」「初めに見た水の流れと全然違う世界になった」「友達と協力して描けて嬉しかった」などの意見を共有した（4・6年は、5年の次に同様の製作を行った）。

（5）仕上がった全校の作品を鑑賞する（時間外）

学級ごとに仕上がった全校児童の作品を鑑賞した（図8）。乾いているので、作品の上から見る、ステージから見るなど、様々な位置から鑑賞した。タブレットでお気に入りの絵を撮影する学級もあった。

特別支援学級は、「海の動物がいるね」「ペンギンがいる」「お姉ちゃんの描いた絵はどれかな」などと話しながら鑑賞を行った。

低学年は、自分たちが描いた線の上に海の生き物がいることにまず驚いていた。「私たちが描いた海にいろいろな生き物がいる」「きれい」「くじらだ」「しゃちだ」「本当に海みたい」「体育館が素晴らしくなった」などの感想を述べていた。

高学年は「全校の協力で体育館が海の世界になった」「全校で一枚の絵だけど、一つ一つは個性がある」「みんなが頑張って描いたことが伝わってくる」などの感想を共有した。

（6）保護者・学校評議員・学校関係者鑑賞

○参観者数（児童数277人中101人参観）

保護者参観 101人、学校評議員 5人、大学関係者 3人、市教員 5人

平日の2日間という短い日程であったが、全児童の3分の1以上の保護者が来校し鑑賞、撮影を

図5 5年の活動全景



図6 自分の体より大きな魚を描く児童の様子



図7 自分の作品に集中する5年



図8 全校児童の作品（部分）



行った。批評撰を置いていたところ、34枚の感想が寄せられ、ホームページで共有した（表3）。

表3 保護者、学校評議員、学校関係者批評撰

- ・見学に行くと5年生も授業で鑑賞していました。2階から絵を覗いたり絵の上を歩いたり、友達と楽しそうに話している姿を見て、こちらもとても嬉しくなりました。ダイナミックな共同製作は思い出になったと思います。準備や企画をいただきまして先生方に感謝します。ありがとうございました（1年・2年 保護者）。
- ・子供から「海をぬったよ」と聞いていたのですが、こんなに大きな作品とは思いませんでした。めったにない機会を楽しめたと思います。素敵な体験をありがとうございました（2年 保護者）。
- ・昨年、一昨年の壁画、教室に続き、今年は体育館に描くのをずっと楽しみにしていました。ダイナミックで愉快で素敵な作品でした。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました（6年 保護者）。
- ・大きな絵を描くのは難しいと思うのですが、小さくまとまらずスペースを伸び伸びと使って上手に描かれていたので驚きました。色遣いも楽しくて、子供がとても楽しく製作する様子が伝わってきました。人生でおそらく一度きりの素敵な経験。思い出ができたと思います。素晴らしい企画をありがとうございました（1年・6年 保護者）。
- ・「海の世界」にどっぷりつかりました。楽しい世界にお招きいただき、ありがとうございました。このまま体育館に水をまいたら、魚たちの大運動会が始まりそうでわくわくです。子供たちが作成している現場を見たかったです。子供たち、先生方、技能員さん、関係者の皆様に感謝申し上げます（学校評議員）。
- ・学年ごとの成長がみられる作品となっていました。1年から6年までが一つのまとまった作品を見るのは、初めてでした。色遣いも学年を追うごとに素晴らしく、表現力もありました（学校関係者）。

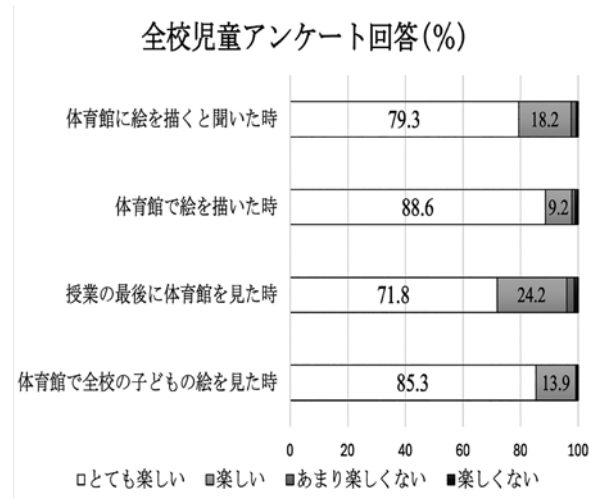
4. 考 察

学習環境のデザインの空間・活動・共同体の要素及び留意点から本実践を考察する。三要素の中で、学習に直結するのは、活動である。考察では、活動・空間・共同体の順番に論を進める。

（1）活 動

本題材は、「全校でテーマを決める」「体育館に学年で絵を描く」「学年で仕上げた絵を鑑賞する」「全校の仕上げた絵を学級で鑑賞する」の4つの活動から構成されている。全学年が体育館での製作を終了し、各学級で鑑賞した後に全校児童にアンケートを実施した（図9）。

図9 全校児童の作品鑑賞後のアンケート回答



全ての活動において「とても楽しい」「楽しい」が96%以上になっている。

○「体育館で絵を描いた時」

図9の「体育館で絵を描いた時」は「とても楽しい」が88.6%と最も高い。

表4は、体育館で絵を描いた時、「とても楽しい」と回答した各学年の児童の割合、理由である（2名以上が書いた理由を記載）。

「とても楽しい」と回答した割合は、1・2年より3年以上のほうが高い割合となった。

特別支援学級、1年は、「ローラーが楽しい」「くるくるが描けた、楽しい」というようにローラーを使いくるくる回って描くなどの活動そのものを理由にあげている。2年は、活動そのもの、

表4 体育館で絵を描いた時

「とても楽しい」を回答した割合	「とても楽しい」と回答した理由（2名以上の回答）
特別支援100%	くるくるが描けたから2名
1年85.1%	ローラーが楽しかった23名、くるくるが楽しかった9名、幼稚園を思い出した2名
2年76.9%	くるくるが楽しかった9名、初めてローラーを使う7名、気持ち良かった3名、海が上手に描けた2名、青と白を重ねて塗るとききれい2名
3年92.2%	初めて体育館に描いた17名、いろいろな点・線・渦を自由に描けて楽しかった9名、気持ち良かった7名、どんどん色がついた2名、色が混ざってきれい2名
4年91.1%	一生に一度の経験9名、友達と協力して描けた6名、また描きたい4名、たくさん描けた3名、いろいろな先生にほめられた3名
5年92.6%	友達と協力して描けた7名、一生に一度の経験5名、満足いく絵が描けた5名
6年90.5%	友達と協力して描けた14名、一生に一度の経験13名、満足いく絵が描けた4名、きれいな海の世界になった3名、いろいろな生き物が描けた2名

さらに「海が上手に描けた」「青と白を重ねて塗るとききれい」というように色やテーマに気づいた理由をあげている。3年は活動そのもの、工夫した点、色の変化に気づいた理由をあげている。高学年は、「友達と協力して描けた」「一生に一度の経験」をあげている。また、「満足いく絵が描けた」というように自身の作品についても記述している。4年の「いろいろな先生にほめられた」は、担任以外の教職員の支援があったから出てきた理由であると考えられる。

「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した児童は2.2%であった。理由は「手足につくのが嫌」（1年2名）、「疲れた」（2年1名）、「僕の作品が目立たなかった」（5年1名）、「腰がつかった」（6年1名）である。

○授業の最後に体育館を見た時

図9「授業の最後に体育館を見た時」は「とても楽しい」が71.8%である。

表5は授業の最後に体育館を見た時、「とても楽しい」と回答した各学年の児童の割合、理由で

表5 授業の最後に体育館を見た時

「とても楽しい」を回答した割合	「とても楽しい」と回答した理由（2名以上の回答）
特別支援75%	海が楽しかった2名
1年89.3%	色がきれい2名、自分たちで頑張った2名、兄弟がこれから描くから楽しみ2名
2年66.7%	きれい・すごい14名、海になった4名、みんなで描いた2名、いろいろな線があって楽しい2名
3年68.6%	みんなで力を合わせて描いた14名、きれい6名、上から見るとすごくきれい2名、4～6年の絵が楽しみ2名、本当の海みたい2名
4年63.9%	きれい・上手10名、いろいろな生き物がいる3名、いい作品ができた2名、上から見るとみんなの絵が見えた2名、協力してすごい体育館にした2名
5年63.2%	きれい9名、すごい2名、カラフル2名、面白い2名、みんなの絵が合わさるとすごい2名
6年75.6%	きれい11名、いろいろな生き物がいる2名、体育館が鮮やかになった4名、海の世界を自分たちで作れた4名、迫力がある3名、いい絵が描けた3名、達成感2名、自分の絵が作品の一部となった2名

ある（2名以上が書いた理由を記載）。

体育館のステージに上がり、個々で描いていた作品を俯瞰して、学年全員で鑑賞した。1～6年までが、「自分たちで頑張った」「みんなで力を合わせて描いた」と回答しているように、俯瞰して見たことで自分たちの描いた軌跡が実感できたと考えられる。また、「きれい」という回答も1～6年までが回答している。アクリル絵の具の発色の良さを感じていると考えられる。しかし、手洗いや着替えもしておらず、児童は活動後の疲れもあり、じっくりとした鑑賞とはならなかった。

「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した児童は4%であった、理由は、「体育館の授業が最後で悲しい」（4年～6年6名）、「海だけでまだ魚がいらない」（2年1名）、「見てるだけだから」（3年1名）、「自分の絵が見つからない」（4年・6年2名）、「楽しい時間が終わってしまった」（5年1名）、「もう少し大きく描けばよかった」（5年1

名)である。

○体育館で全校の子供の絵を見た時

図9「体育館で全校の子供の絵を見た時」は「とても楽しい」が85.3%である。

表6は、体育館で全校の子供の絵を見た時、「とても楽しい」と回答した各学年の児童の割合、理由である(2名以上が書いた理由を記載)。

製作日が早い1年、3年、4年は「とても楽しい」の回答が100%、91.8%、90.5%と高かった。

表6 体育館で全校の子供の絵を見た時

「とても楽しい」を回答した割合	「とても楽しい」と回答した理由(2名以上の回答)
特別支援50%	海の生き物が見られた、ペンギン、シャチが見られた2名
1年100%	上手だった2名、くじらシャチなどがあった2名、本物の魚と違う色があって面白い2名、
2年76.9%	きれい8名、海の上にいろいろな生き物がいて楽しい3名、高学年の絵がすごい3名、本当に海みたい2名、全校で描き楽しい気持ちになった2名
3年91.8%	たくさん生き物がいる12名、高学年の絵がすごい6名、みんなで力を合わせた5名、いつもは描けない場所見られない絵を見られ楽しかった3名、自分たちの描いた海に色とりどりの生き物がいた2名、なんでもない体育館が素晴らしくなった2名
4年90.5%	上手な絵がいっぱいあった9名、きれい5名、全校で大きな作品ができた4名、体育館が海の生き物で海の世界になった4名
5年79.6%	いい絵、美しい絵になった3名、全校で描いているのに個性がある3名、いろいろな魚、色、アイデアがある3名、素晴らしい思い出になった2名
6年75.6%	きれい8名、体育館が海の世界になった6名、全校で描いた絵はすごい4名、各学年の個性が見られた2名、みんなが真剣に製作したことが伝わってきた2名、体育館がきれいになった2名

「自分たちの描いた海に色とりどりの生き物がいた」(3年2名)のように自学年の製作後の変化の大きさを実感したと考えられる。

「いろいろな海の生き物」「絵がすごい、上手」という回答は全学年に共通している。2年から

「全校で描き楽しい気持ちになった」と全校で描いたことを意識した回答がでてくる。5・6年では、「全校で描いているのに個性がある」「各学年の個性が見られた」「みんなが真剣に製作したことが伝わってきた」のように、表現の意図や表し方の変化を感じとっていることがわかる。

「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した児童は0.8%であった。理由は「もっと自由に描けばよかった」(5年1名)、「僕の作品が目立たなかった」(5年1名)であった。

① 活動の目標が明快であるか

本題材のテーマは全校児童のアンケートで決定し、全校放送で計画委員長より発表された。全校児童に「体育館を海の世界に変身させよう」は共有されていた。

② 活動そのものに面白さはあるか

アンケートの結果から、全ての活動において「とても楽しい」「楽しい」が96%以上になっている。また、「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した児童も活動に関しての否定的な理由ではなく、身体的な疲れ、自分の作品への評価、もう体育館が使えなくなるなどの理由であった。体育館に海の世界を描く活動は、面白さがあったと考えられる。

③ 葛藤の要素は含まれているか

低学年が体育館で絵を描いた時「とても楽しい」と回答した理由は「ローラーが楽しかった」「くるくるが楽しかった」などである。ローラーそのものの動きを楽しみ、結果として水の流れを描いている。葛藤の要素は少ない活動であった。

高学年が「楽しくない」「あまり楽しくない」と回答した理由に「もっと自由に描けばよかった」「作品が目立たなかった」という回答があるように、海の生き物を描く中で色や形を考え、表現する中で個々に葛藤があったと考えられる。

(2) 空間

① 必要な情報や物が適切なときに手に入るか

図10のように、低学年のローラーで描く授業は、材料置き場で児童がいかに円滑にローラーに絵の具をつけ、床を描き始められるかが、活動の大きな鍵であると考えられる。ローラーに絵の具

図10 材料置き場コーナー



が適切な量ついていないとローラーがうまく進まず活動の楽しさが半減するからである。ローラー用トレイへの絵の具の補給など、材料置き場では職員の補助が必要と考えられた。担任は、体育館の中央付近で、描いている児童の様子を見守り、絵の具の補給を技能員、教員業務支援員が行った。これにより児童は、ローラーの使い方を工夫するなど手や体全体を働かせて活動することができた。

② 仲間とのコミュニケーションが容易に行えるか

図11 6年活動全景



図11は6年の活動の様子である。作品を友人と描く児童、一人で描く児童、友人の作品を鑑賞している児童など様々な活動をしている。体育館という床面を描くことで、互いの作品を自然と見合うことができ、仲間とのコミュニケーションをとりながら表現することができたと考えられる。

図12・13は6年児童3人の作品である。3人は海に思いっきり泳ぐイカを大きく描きたいと考えていた。A児が黒で輪郭を取った後B児、C児と色を塗っていく。イカの色は、B児とC児がこ

図12・13 6年児童3人の作品



わって混色して作った色である。イカを描き終わり、3人は立ち上がって確かめ、「黒い線があるとはっきり見えるね」「カニも並べよう」と話した。3人と一緒に作品を見ていた他の児童も黒い輪郭線があることで作品がはっきり見えることを感じたようだ。自身の作品に黒い輪郭線を使い始めた。

③ 参加者全員にとって居心地よい空間であるか

本題材は、体育館を6学年が順番に描いていく題材である。児童は、何も描かれていない体育館を描くことを通して、空間を変化させていった。

(3) 共同体

授業の最後に体育館を見た時、1年2名が「兄弟がこれから描くから楽しみ」という回答をしている(表5)。家族で汚れても良い服装等の準備をしながら兄弟が時間差で描く絵について、楽しみになるような会話が交わされたのだろう。さらに保護者が鑑賞に来校した場合、表3にあるような感想を家庭で話すことが予想できる。児童にとって保護者が認めてくれることは次の活動への自信につながる。保護者は、本題材において共同体の一員として重要な役割を担っていると考えられる。

① 目標を共有すること

本題材に関わったのは、全校児童、教職員、保護者、学校評議員、カメラマン、アーティストである。目標の共有方法を以下に示す。

児童は、計画委員長の全校放送により「体育館を海の世界にする」という目標を共有した。教職員は、職員会議において役割分担し目標を共有した。保護者は、製作に向けての服装の準備、鑑賞

の日程を学校だより、学年だより、連絡帳、ホームページなどで共有した。鑑賞に参加した保護者は227名中101名であった。学校評議員は、前研究の際から作品を鑑賞する機会を設け、学校評議員会で体育館に移動し紹介をした。カメラマン、アーティストは前研究から協力を依頼していた。カメラマンは、6年の卒業アルバム撮影のため製作風景を撮影した。アーティストは、前研究からアクリル絵の具の相談を行い、本題材においても児童と共に作品を描いている。

② 共同体のライブラリーをつくること

小学校においては、職員室が関連する人々の意見を反映するライブラリーとなる。本題材のように全校で取り組む題材は、職員会議の提案と児童の発達段階から、どのように進めていくかは最終的には学年が担うことになる。学年内の共有、前時に実践した学年との情報共有があり、そこから授業がスタートした。

5. 終わりに

本研究は、大規模改造工事で張り替える壁や床を画面にして描く3年間の「共同してつくりだす活動」の最終年の実践を学習環境デザインの視点から見つめ直した。

(1) 成果

① 教材の構想、実践

全校児童で「体育館を海の世界に変身させよう」という目標を立て、低学年がローラーで水の流れを描き、高学年が筆で海の生き物を描く教材の構想、実践を行うことができた。

② 学習環境のデザインの視点からの考察

学習環境のデザインの要素である空間・活動・共同体の要素および留意点から実践を考察した結果、以下のことがわかった。

○空間

体育館の床面を描くことで、児童は、手や体全体を十分に働かせて活動することができた。また、互いの作品を自然と見合うことができ、発想や表し方などを交流しながら感じとり、表現することができた。活動が円滑に進んだのは、職員会議の提案をもとに、材料置き場の工夫、人員配置

の確保などができたからである(図1、表2)。

ステージから作品を鑑賞することで、体育館全体の様子を感じ取り、表現のよさや面白さ、見方や考え方を広げることができた(表5、表6)。

○活動

本題材は「全校でテーマを決める」「体育館に学年で絵を描く」「学年で仕上げた絵を鑑賞する」「全校の仕上げた絵を学級で鑑賞する」の4つの活動から構成されている。全ての活動において、「とても楽しい」「楽しい」が96%以上になった(図9)。

○共同体

本題材の共同体は、全校児童、職員、保護者、授業協力者である。「体育館を海の世界にしよう」という目標のもと、職員は学習環境を整えた。保護者は、本題材において準備、家庭での会話、仕上がった作品を認めるなど共同体の一員として重要な役割を担っていた(表3)。

○空間・活動・共同体

空間・活動・共同体はそれぞれ関連し、これらをつなぐ人工物は、共用アクリル絵の具であった。アクリル絵の具を共用することにより児童同士の関わりが自然と生まれた(図10)。

(2) 今後の展望

① 画面の広さと児童の表現

低学年で体育館で絵を描いた時に「とても楽しい」と回答した割合は1年85.1%、2年76.9%で、3年以上のほうが高い割合であった(表4)。低学年のローラーを使った実践の場合、活動場所は教室が多い。全校での活動という意味は大きい。発達段階を考えると1・2年にとって体育館という画面が適切であったかは課題である。画面の広さと児童の表現については、今後考察を深めたい。

② 職員の視点からの考察

本研究は、大規模改造工事を活用した3年間の研究である。研究初年度に職員は、研修としてアクリル絵の具を使用して壁にローラーや筆で描く活動を経験しているため、体育館の床に絵を描く活動のイメージがついていた。職員がその教材を実際に製作した経験、授業を参観した経験がある

かないかで、題材に対する考えは異なってくる。
3年間の教職員の質問紙回答をもとに、今後、職
員の視点から研究を考察していきたい。

参考文献

- ・文部科学省（2017）「小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説図画工作編」、pp.1-180.
- ・松井素子（2018）「図画工作科の共同製作が育む新しい可能性の探究—ジョンソンらの協力学習法に基づく協働制作の題材開発—」『美術教育学研究』50(1)、pp.305-312.
- ・秋田貴代美・坂本篤史（2015）『心理学入門コース3学校教育と学習の心理学』岩波書店.
- ・美馬のゆり・山内祐平（2024）『「未来の学び」をデザインする新版 空間・活動・共同体』東京大学出版会.
- ・山内祐平（2020）『学習環境のイノベーション』東京大学出版会.
- ・久保田美和（2024）「学校に絵を描くということ（1）—6学年『共同してつくりだす活動』の活動場所の比較を通して」『敬愛大学教育学会紀要』3、pp.72-82.